

## 宮城県加美農業高等学校

企画名：甦れ！ジュンサイ ～伝統農業と自然豊かな水環境を継承するものとして～

紹介文：伊豆沼・内沼は、平野部の湿地帯を代表する鳥類・魚類・水生植物が生息し、その生態系の豊かさから、日本で2番目にラムサール条約に登録された重要な湿地である。伊豆沼・内沼のような湿地は、かつては日本各地に存在していたが、圃場整備などによって多くが失われてきた。米どころである宮城県で、伊豆沼・内沼は、まるで孤島のように水田地帯の中に自然が残っている。水田は米を生産するが、沼は米以外の食材を提供し、地域の伝統農業を支えてきた。沼の小魚やエビは食材となり、ジュンサイは「伊豆沼じゅんさい」のブランド名で出荷され、地域の収入源になっていた。しかし、戦後の過度な開発、農薬の使用や外来魚の野放図な放流により、小魚やジュンサイが沼から姿を消しつつある。現在、これらの生き物を守り、生物多様性や伝統農業を取り戻すための活動が沼で行われ、その先進性から環境省のモデル事業にも採択されている。そこで今回、外来魚の駆除活動や自然再生事業などの先進的な活動を、座学と実地体験を通じて学び、農業高校の生徒に地域の環境と伝統農業について考える機会を提供することを目的とした。



図 伊豆沼の環境調査



図 ジュンサイの収穫体験  
(秋田県山本郡三種町にて)



図 ジュンサイの選別作業体験  
(秋田県山本郡三種町にて)